

編集後記

よく耳にする「正當にこわがることは難しい」は、浅間山噴火直後の人々の言動を題材にした寺田寅彦の警句だそうですが、刻々と変化する状況や危機を適切に受け止め間違わずに行動する厄介さを表す言葉でもあるようです。同じく寺田寅彦の作品に「B教授の死」という短い随筆があります。編集後記を仰せつかりPCに向かうも筆は進まず、ついネット上の某文庫などを徘徊するうち、B教授なる人物が当学会誌の研究分野の初期の大家であったことを遅まきながら知り、駄感想を埋め草とさせていただきます。随筆は、寺田が勤める大学をふらりと訪れた旧知の「スカンジナビア人の物理学者B教授」が日本滞在中、憔悴し「スパイに狙われ世界中を逃げ回って日本にまで来た」などと打ち明けて…といったあらすじです。B教授にまつわる出来事を中心に、大正6年当時の日本の様子が細かく描かれた趣深い作品です。「今日は体調が悪くドイツ語や英語は苦しいからフランス語で話そう」と頼まれた寺田が承諾する場面があり、熊本の旧制高校時代から夏目漱石の指導を受けた

という寺田翁は一般的な理系研究者とは事情が違うとは思いますが、それでも当時の人々の語学力に感心します。作中でB教授の名前は最後まで明かされませんが、「空中窒素の固定や北光の研究者」、「『テレラ』の命名者」と説明されており、ノルウェーのプラズマ物理学者ビルケランド(Kristian Birkeland, 1867-1917)とわかるそうです。オーロラの室内実験を開始し、ノルウェー北部のHalde山に観測所を整備した基礎研究者として知られる一方、ビルケランドがコイルガンや食品関係の多くの特許を持ち、放電による窒素固定法の発明者でもあったことに興味を持ちました。彼が関わった会社は莫大な利益を上げてノルウェー経済は大いに潤い、現在でも200クローネ紙幣に肖像画が描かれているということです。陰極線を用いた基礎実験からスタートしたというビルケランドが次々と新天地の分野に研究を拡げたとき、将来をどのように正當にこわがりながら進もうとしたのか、コロナ下の在宅勤務の合間に妄想してみました。(斎藤晴彦)

プラズマ・核融合学会 役員

会 長：森 雅博
副会長：安藤 晃 (推薦委員長：研究助成，男女共同参画委員長) 竹入康彦 (推薦委員長：学会賞，研究部会連絡会委員長)
常務理事：下妻 隆 (総務委員長)
理 事：荒巻光利 (編集委員長) 出射 浩 大勢持光一 大野哲靖
金子俊郎 木戸修一 (財務委員長) 小西哲之 齊藤輝雄
篠原孝司 (広報委員長) 神野雅文 中井光男 (年会運営委員長，企画委員長)
渡邊隆行 (企業展示検討委員長，支部・地区研究連絡委員長) 横峯健彦 和田 元
監 事：中村圭二，前田達志

プラズマ・核融合学会 領域長

基礎 荒巻光利 応用 渡邊隆行 核融合プラズマ 大野哲靖 プラズマ炉工学 小西哲之

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ：荒巻光利(日大) 副委員長：出射 浩(九大)
エディタ：古閑一憲(九大)，比村治彦(京都工繊大)，波多野雄治(富山大)，城崎知至(広島大)，藤田隆明(名大)，村上定義(京大)
編集委員：池添竜也(九大)，今寺賢志(京大)，岩田夏弥(阪大)，上野一磨(中京大)，大谷芳明(量研)，小川大輔(中部大)，
呉 準席(大阪市大)，小柳津 誠(量研)，加藤雄人(東北大)，河村学思(核融合研)，小林 真(核融合研)，小林政弘(核融合研)，
近藤康太郎(量研)，齋藤誠紀(山形大)，齋藤晴彦(東大)，柴田崇統(高エネ研)，清水鉄司(産総研)，
竹田圭吾(名城大)，田中宏彦(名大)，中村浩隆(阪大)，水口直紀(核融合研)，向井啓祐(京大)，本村大成(産総研)，
森田太智(九大)，森高外征雄(核融合研)，山田大将(長野高専)，安原 亮(核融合研)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第97巻第2号

編集・発行
〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階 印刷 株式会社荒川印刷
一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会 2021年(令和3年)2月25日
Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485
E-mail: plasma@jspfor.jp URL: http://www.jspfor.jp/ 定価1,300円(税別)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。